

平成30年度 第3回櫛葉町原子力施設監視委員会 ★ 開催報告 ★

平成31年2月13日（水）、平成30年度第3回櫛葉町原子力施設監視委員会を開催しました。

当日は、**福島第一原子力発電所の現地視察**を行うとともに、東京電力ホールディングス株式会社から説明を受けました。また県・町による防災対策の現状についても確認しました。



★ 構内視察

◆ 1～4号機建屋外観（構内高台より）

- 1～4号機の現状を確認しました。

	現 状
1号機	2023年開始目標の使用済燃料プールの燃料取出しに向けて必要なガレキ撤去作業などの準備や調査を実施中。
2号機	
3号機	使用済燃料プールの燃料取出しを控え、使用するクレーン等の安全確認・操作訓練等を実施中。
4号機	昨年度から変化なし（原子炉内、使用済燃料プール内ともに、燃料は無く、リスクは低い）。



高台から各号機を視察
（左奥は2号機原子炉建屋）

- 1・2号機排気筒について、新たな地震による倒壊リスクを低減するため、高さ60mに切り下げる計画が進められています。

◆ 大型機器除染装置、フランジタンク解体片保管施設

- 汚染水を入れていたフランジタンクは、水平に4つの円筒状に分解し、さらに縦に4分割解体した「フランジタンク片」にして、大型機器除染装置で、保管のための基準値以下となるまで除染されます。
- 除染されたフランジタンク片は、さらに小さく分割・切断されてからコンテナに入れられ、フランジタンク解体片保管施設で安全に一時保管されていました。



大型機器除染装置の前で説明を聞く
（シャッターの中に装置がある）

【委員会による所見・指摘事項】

- フランジ解体片保管施設では、コンテナ容器表面の放射線量率測定結果を、わかりやすく表示しておくことが望まれます。



フランジタンク解体片保管施設
（津波リスクが小さい高台に配置）

◆ 3号機使用済燃料取扱オペレータ室（免震重要棟）

- 本年3月末から着手する使用済燃料プールの燃料取出しは、作業員の被ばく量低減のため遠隔操作で行われること、機器には非常用停止装置など多重の安全装置や予備品が備えられること、作業のための手順作成や訓練が行われること、作業中に測定される放射線量はオペレータ室と事務本館の両方で監視されることなどを確認しました。

◆ 化学分析棟

- 発電所内に 3 箇所ある分析室のひとつで、周辺の放射線の影響を受けにくい地下にあります。ここでは特に海水や地下水バイパスの排水、アルプス処理水※、など濃度が低い試料の放射能測定をしていました。

※アルプス処理水：多核種除去装置（アルプス）で処理した汚染水（トリチウムは除去されず残っている）

【委員会による所見・指摘事項】

- 現在は、ガンマ線、ベータ線を出す放射性物質を測定していますが、今後は、アルファ線を出す放射性物質についても測定することが望めます。



化学分析棟の分析室

◆ 緊急医療室（ER）

- 医師、救命救急士、看護師などが、毎日 24 時間体制をとっています。また、専用の緊急出入口や汚染検査・除染設備があり、傷病者への緊急対応が可能となっています。
- 救急医療と被ばく医療に詳しい医師が配置されていることを確認しました。

★ 論点についての追加確認

前回の委員会で検討した論点に関して、次の事項を追加で確認しました。

論点	確認された事項
核燃料について	<ul style="list-style-type: none"> ● 3号機燃料取扱設備のトラブル対応は概ね完了し、2020 年度中には使用済燃料プールからの本格的な燃料取出しを行い、2 年程度で完了させる予定です。 ● 燃料デブリの取り出しは、2 号機で実施した内部調査の結果を踏まえて具体的な計画が検討され、2019 年度中には最初に取り出しを進める号機が決定されます。
処理水について	<ul style="list-style-type: none"> ● アルプス処理水は、発電所内に約 112 万 m³ 保管されています。そのうち、放射性物質の濃度が国の定める（告示）基準値より低い水は約 14 万 m³ です。 ● 漏洩リスクが比較的高いフランジタンクに入った処理水は、今年 3 月末までにすべて漏洩の危険性が少ない溶接型タンクへの移送が完了する予定です。
津波対策について	<ul style="list-style-type: none"> ● 千島海溝津波のシミュレーション結果（最高水位 10.3m）を受けて、高さ 11.0m の防潮堤を新たに建設することとなりました（2020 年度上期完成目標）。

【委員会による所見・指摘事項】

- 燃料デブリの取出しについては、計画が具体化した時点で情報提供いただくとともに、初めての作業なので周知な準備と具体的な検討・評価を行うことが重要です。
- フランジタンクから溶接型タンクへの処理水移送が完了することで、漏洩リスクは大幅に低減すると考えられます。引き続き、しっかり管理して漏洩を防止することが望めます。

★ 県・町の防災対策について

- 県が 1 月に実施した原子力防災訓練の内容、町による「櫛葉町地域防災計画原子力災害対策編」の修正概要について、確認しました。

- 平成 30 年度第 3 回櫛葉町原子力施設監視委員会の配布資料・議事概要は、町のホームページ（<http://www.town.naraha.lg.jp>）でご覧いただけます。